

1、園の保育目標

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① よく考え、よくみつめる ② よく食べ、よく遊び、健康に過ごす ③ 友達と元気に仲良く遊ぶ |
|--|

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
学校評価の具体的な目標や計画

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 食育活動 2. 歩行の発達、運動面の育ち 3. 保護者支援 4. 園の保育理念への保護者の理解 |
|---|

3、評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	取 組 状 況
<p>1. 食育活動</p> <p>保育者自身が、ミルク・離乳食の意味を知ると共に、歯の生え方、手づかみ食べの意義についての知識を深め、給食室と連携しながら、低年齢児の食育活動の向上を図る</p>	<p>子育て経験がない若い保育者にも理解ができるように、低年齢児の歯の生え方や、離乳食の進め方を話し合い、知識を深めるようにした。0歳児クラスでは、家庭との連携を密にし、ミルクに頼る保護者や離乳期に何を食べさせたら良いか悩む保護者に寄り添い、助言することができた。食育活動では、トウモロコシや玉ねぎの皮むきに加え、2歳児が育てたピーマンを給食で食べ、苦手な子も口に入れる姿が見られた。また、園で実るダイダイを各クラス収穫し、給食室でジャムを作ってもらい、五感で食材を感じることができ、喜んで食べる姿が見られた。</p>
<p>2. 歩行の発達、運動面の育ち</p> <p>散歩以外に自然に「のぼる」「おりる」「くぐる」「またぐ」などの動作ができるような環境、活動を増やし、運動面の向上を図る。</p>	<p>発達段階に応じて巧技台やトンネルなどを活用し、個々の運動面の向上に努めた。特に3歳以上児は、園庭のボルタリングをほぼ自分で登ったり平均台では、バランスを取って歩いたりする姿が見られた。「くぐる」「またぐ」に関しては、今後も意識して見守り、環境を設定することが必要である。</p>

<p>3. 保護者支援 初めての子育ての保護者の孤立を防ぎ、不安な思いや子育ての疑問に寄り添い、保育者自身の専門性も高める。</p>	<p>連絡帳に質問があった際は、迎え時に直接顔を見て話すことで、文字ではわからなかった保護者の思いを丁寧に聴くことができた。また、日々の伝達や連絡帳から保護者の悩みや疑問をキャッチするように心がけた。</p>
<p>4. 園の保育理念への保護者の理解 ドキュメンテーションやクラスだよりを掲示、配信し、保育の取り組みや子どもの育ちを可視化し、保護者の理解を深める。また、保護者と子どもの育ちを共有し、共に育ちを支える</p>	<p>従来のドキュメンテーションに加え、年度末に5領域から見られる一年間の育ちを発信した。見えにくい乳幼児期の育ちを家庭と共有し、子ども理解に努めた。また、年度末の一年間の子どもの育ちを記録したDVDは特に反響が大きく、我が子だけではなく、同学年の一人ひとりの育ちを見てもらうことができた。</p>

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年に引き続き、コロナ感染対策を行いながら、日課を大切にしたい保育を提供した。2年前、取り組みを回避した食育活動では、調理員と協力しながら実施することができた。来年度も積極的に取り入れ、「食を営む力」の育成につなげたい。

また、こまめにドキュメンテーションやクラスだよりを配信し、園だよりなどでは、その時期の子どもの育ちや、行事に対する園の方針、考え方を説明したことにより、保護者アンケートの「園だよりやクラスだより、連絡帳・・・」の「とてもよく理解できた」「理解できた」の合計が100%という結果になった。今後も子どもの育ちを可視化し、保育の質の向上に努めたい。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育者の育成	保育マニュアルなどを改訂し、1年目の保育者の個性に合わせてサポートしていく。
子どもに合わせた保育環境の充実	子どもの興味や育ちに合わせて保育環境を見直し、教材を充実させる。
全体的な計画、年間カリキュラム、食育、保健計画の改訂し、保育の質を上げる	改めて園の方針や目標に基づいて、乳児、1歳以上児、3歳未満児、3歳以上児の発達過程に分けて作成する。
園の保育理念への保護者の理解	ドキュメンテーションや動画などで、3つの視点、5領域から見られる育ちを伝え、より深い保育内容の可視化に努める。保護者の保育に対する理解を深める。